

高等学校

- (1) 工業 建設工学
- (2) 起震車体験学習
- (3) 防災キャンプ (避難体験学習)
- (4) 備蓄品 (LHR活動)
- (5) 開発教材 (防災ずきん)

1 単元名

「課題研究：家具転倒防止金具の取り付けボランティア」

2 ねらい

○工業に関する課題を設定し，その課題の解決を図る学習を通して，専門的な知識と技術の深化，総合化を図るとともに，問題解決の能力や自発的，創造的な学習態度を育てる。

【防災教育の観点】

○災害に対して関心をもち，その防止法について意欲的に取り組むとともに，自ら進めて行く計画的な態度を身に付ける。

3 指導計画

(1) 事前指導

災害指定地域の高齢者の把握

- ・地震時の家具転倒の被害状況を学ぶ。
- ・NPO 法人の方による転倒防止金物の取り付け作業の注意事項・留意点などの講演会を実施する。
- ・地域の民生委員の方々と連携をとり，了承を得る。

(2) 本時の指導

- ・依頼者宅にて家具転倒防止の金物の取り付けを行う。
- ・取り付け作業の要領と方法を体験する。

(3) 事後指導

- ・次回に向けて取り付け作業の要領と方法の確認をする。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 家具転倒防止金物の取り付け作業の説明 ・地震による転倒防止金物の種類と使用箇所についての学習	・依頼者に伺い，地区の民生委員との打ち合わせを事前に行う。	
2 家具転倒防止金物の取り付け作業体験 ・道具の使用方法和点検方法の習得	・金物を取り付ける家具についての留意点と金物の種類，下地材（柱，天井回縁，家具の下地材）などの注意点についての確認をする。 【確認事項】 ①取り付けについて道具を，正しく安全に使用しているか。 ②下地を傷つけていないか。	・作業に必要な工具 ・取り付け金具

	③安全に固定されているか。 ④プライバシーの配慮がされているか。	
3 家具転倒防止金物の取り付け作業の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の意義付け ・専門的技術の確認 	
	【防災教育の観点】 ○災害に対して関心をもち、その防止法について意欲的に取り組むとともに、計画から実践まで自ら進めて行く態度を身に付ける。	

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
災害について関心をもち、その防止法について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	災害・家具転倒防止金物の取り付けにおいて、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、創造的な能力を身に付けている。	災害・家具転倒防止金物の取り付けについて、基礎的・基本的な技術を身に付け、安全や環境に配慮して合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	災害・家具転倒防止金物の取り付けについて、基礎的・基本的な知識を身に付け、意義や役割を理解している。



L型金具の取付け



上部、下部の連結施工例

1 単元名

「地震を体験する 一起震車体験学習」

2 ねらい

○起震車により震度7クラスの揺れを実際に体験し、激しい揺れの中でどのように自分の命を守るべきか考える。

【防災教育の観点】

○今後発生が予測されている東海地震・東南海地震などの想定震度による被害状況を踏まえて、今からできる「命を守る行動や取組」を考える。

3 指導計画

(1) 事前指導

① 4, 5, 7月の訓練時の内容を中心とした日常の指導

- ・頭部保護を基本とした地震時の対応を習慣付ける。
- ・校舎や自宅，登下校時の路上等の様々な場所において，どのような危険があるか予測させ，自分の命を守るためにはどんな行動をするべきか考えさせる。

② 実施1週間前頃の指導

- ・起震車体験学習の内容を知らせ，激しい地震の揺れの中での身体の守り方を考えさせる。

(2) 本時の指導

① 体験学習の安全に関する指導

- ・体験当日の体調を把握させ，体験学習の参加について判断させる。
- ・体験時には机の脚をしっかり持ち，頭部を保護するよう指示を徹底する。

② 体験学習の手順に関する指導

- ・体験グループ（1回の体験人数4名）を作り，順番に体験させる。
- ・体験を待つ間は，他のグループの見学をさせる。

③ 主体的な学びの場となるための指導

- ・事前にグループで体験中にできる安全行動について考えさせておく。（揺れの中で防災ずきんを被る，机の下に潜る等）
- ・体験直後に，体験中の行動や考えたこと，感覚（恐怖や不安）について，グループで意見交流をさせる。

(3) 事後指導

① 命を守る行動に関する指導

- ・体験中に適切な行動がとれたかを振り返らせる。
- ・体験している人の様子から，頭部保護や安全を確保するための行動ができていたかを相互評価させる。
- ・激しい揺れの中で，安全を確保する行動をとるため，周りの状況を把握す

ることの重要性を理解させる。

②地震対策に関する指導

- ・地震に備えて家屋の耐震対策や家具の固定が重要であることを理解させる。
- ・体験して感じたこと（恐怖や不安等の感覚，感想）や，耐震対策について家族や周りの人に伝え，誰もが防災・減災について意識することが重要であることを理解させる。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 起震車体験の注意事項を確認する。 ・体調確認 ・体験の目的（安全確保）	・体調等を確認する。 ・待ち時間の対応（夏季） ・体験中の安全確保を徹底する。（脚を持つ，頭部保護）	・受付簿 ・当日のタイムテーブル
2 消防署の方から起震車の説明を聞く。（机・椅子の設置状況，室内の震度表示，効果音，モニターの画面等により，本当の地震の様な状況が再現される）	・机の脚は固定されているが，椅子は固定されていないことを知らせる。	・消防署員の話
3 激しい揺れの中で何ができるか考え行動する。 ・立った状態からの体験 ・防災ずきんを着用する体験 ・ヘルメットを着用する体験 ・三角巾をした状態での体験等	・揺れの中で身を守る行動を取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【防災教育の観点】 ○今後発生が予測されている東海地震・東南海地震などの想定震度による被害状況を踏まえて，今からできる「命を守る行動や取組」を考える。</div>	・体験の記録プリント
4 体験の後，体験中の行動や考えたこと，感覚（恐怖や不安）について，グループで意見交流をする。	・自分の行動だけでなく，他の生徒の行動から気付くことをお互いに発表させる。	
5 今しなければならぬことや，今できることをまとめる。	・今，しなければならぬことを中心に防災の手立ての必要性をまとめさせる。	・体験のまとめプリント

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
地震災害の防止の取組について関心をもち，意欲的に参加している。	震度7の激しい揺れの中で，何ができて何ができないか，自分の考えをもっている。	災害時における危険を認識し，自らの安全を確保するためには何をしたらよいかを理解している。

1 活動名

「災害ボランティアリーダーを目指して ～避難体験学習～」(1泊2日)

2 ねらい

○1泊2日の避難所体験学習を通して、災害時の困難な生活状況をイメージし、心と物の備えを体験的に考え、災害時でも率先して行動できる人材(災害ボランティアリーダー)を目指す。

【防災教育の観点】

○東日本大震災等の現状や避難所の役割を学ぶことで自助の大切さを理解し、今できること、災害時にできることは何かを考える。

3 指導計画

(1) 事前指導

①参加生徒の募集、生活班作り

・参加希望者を募り、1グループ4～5人の生活班を作り、班長を決める。

②課題学習の指導(被害想定から考える食事計画の立案)

・「避難生活時の食事計画」冊子を配布し、課題学習の内容を理解させる。

・被災時の状況に近付けるため、水の制限があることを理解させる。

(体験学習中は、生活用水2リットル、飲料水500ミリリットルを2本のみ)

・[個々の課題学習]…「避難生活時の食事計画」冊子に記入することで、被災直後から4日目の朝までの生活をイメージさせ、電気、ガス、水、食料等が制限された被災後の生活の中で作る5人家族の食事を考えさせる。

・[班の課題学習]…個々に考えた「避難生活時の食事計画」を基に、今回の避難体験学習の想定である被災3日目の夕食と4日目の朝食の食事計画を各グループでまとめ、当日の調理計画(題名、食材・調理器具等の分担、完成予想図や工夫点等)をA3用紙にまとめさせる。班長に期限までに提出させる。

(2) 本時(体験学習当日)の指導

①体験学習全般に関する指導

・自己の体調を把握させ、異変があれば早めに申し出る判断をさせる。

・生活上の諸制限の確認をする。(電気使用不可、水使用制限有)

②主体的な学びの場となるための指導

・講師の方の話や指示をしっかり理解し、主体的に行動させる。

・グループの仲間と協力し合いながら体験学習を進めていく中で、助け合い、支え合うことの大切さを理解させる。

・体験の意義や失敗から得られることにより実践力を培うことの大切さを理解させる。

・教員の指示を最小限にし、生徒自らが状況を判断し、先を見通して、今何をすべきか考え行動させる。

(4) 事後指導

①体験学習全体の振り返り

- ・「避難体験学習冊子」に反省・感想等を記入させ、学習内容、体験内容から得た知識や感想、今後の生活に生かしたいこと等を整理させる。

②家庭、地域へ発信する役割

- ・今回の体験学習で学んだことを自分だけに留めず、クラスの仲間や家族、地域社会へ発信する役割があることを理解させる。

4 本時の展開<参考例>

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
【1日目】 1 開講式 2 防災講話1 ○講師：自衛隊 3 体験学習1 ○ロープの結び方 ○土のう作り ○毛布を使った搬送法 ○テントの立て方 4 体験学習② ○カセットコンロの使用法 ○カセットコンロを利用した被災後3日目の夕食作り 5 体験学習③ ○避難生活3日目の夕食 ○非常食大賞の発表 ○片付け 6 防災講話2 ○講師：防災士 7 体験学習4 ○災害時の選択 (クロスロードゲーム方式) 8 体験学習5 ○段ボール、毛布、寝袋等を利用した寝床作り 9 体験学習6 ○大震災と向き合った高校生の作文の朗読	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の体調等を確認する。 ・学習の意義を理解させるとともに、被害想定、制限の確認をする。 ・地震に関する基礎知識、自衛隊の役割等を理解させる。 ・災害時に求められる知識や実践力を身に付けるとともに、仲間をともに協力しあうことの大切さ、自ら動く主体的な行動力の必要性を理解させる。 ・カセットコンロの利便性と危険性を理解させる。 ・怪我や事故のないよう、班毎に見守る。 ・健康維持のために野菜を取ることを、心を満たす温かい食事の大切さを理解させる。 ・不便さや失敗から生まれるアイデアを評価する。 ・洗い物を少なくする工夫等に気付かせる。 ・避難者はお客様ではないという視点で、避難所の自主運営を理解し、自ら動くための知識と行動力を身に付けることの重要性に気付かせる。 ・災害時に起こりうる「決断すべき場面」を体験し、自分とは違う考え方もつ人がいることを理解し、その中でどう自分は決断していくべきか考えさせる。 ・個々に持参した寝具等で寝床作りをさせ、冬場の避難所における保温について対処方法を考えさせる。 ・班ごとに作文を朗読させ、同じ年代の仲間が震災によって何を感じ、どう生きていこうとしているかという想いを受けとめ、自分の考え方や生き方を見直すきっかけを与える。 	冊子 調理計画表 冊子 学習プリント 冊子

<p>【2日目】</p> <p>10 体験学習7 ○カセットコンロを利用した被災後4日目の朝食作り</p> <p>11 体験学習8 ○避難生活4日目の朝食 ○片付け</p> <p>12 体験学習9 ○テントの片付け</p> <p>13 閉講式</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我や事故のないよう、班毎に見守る。 ・アルファ米を利用し、手軽で温かく栄養価に優れた朝食を協力して調理させる。 ・温かい食事の重要性を実感させる。また、被災後の生活で出るゴミについても考えさせる。 ・立てるときの注意点を思い出させ、安全に片付けさせる。 ・2日間を振り返り、感想や反省、今の気持ちを冊子に記入させる。 	<p>調理計画表</p> <p>冊子</p>
<p>【防災教育の観点】</p> <p>○東日本大震災等の現状や避難所の役割を学ぶことで自助の大切さを理解し、今できること、災害時にできることは何かを考える。</p>		

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
<p>避難所生活で配慮すべき点や相互に協力し合うことの大切さを理解し、積極的に参加しようとしている。</p>	<p>避難所の役割を理解し、自主運営をするためにはどのような準備をするべきか考え、家族や地域に発信しようとしている。</p>	<p>東日本大震災等の現状を知ることや、地震に関する基本的な知識を理解し、自助の大切さを理解している。</p>

6 その他

(1) 参考資料（実施要項例）

<h2 style="text-align: center;">平成〇〇年度 避難体験学習実施要項</h2>	
<p>県立〇〇高等学校</p>	
<p>《実施に当たっての願い》</p> <p>さまざまな災害に対し、「自分の命は自分で守る」ための意識や知識、行動力を身に付けるために、学校教育全体を通して、自ら学び、考え、行動する力を養いながら人間的な成長を図り、将来、家庭・職場・地域社会の中で、防災リーダーになれる人材の育成を目指す。</p>	
○目的	<p>東日本大震災の現状を学び、救護活動や避難所生活の体験を通して、災害時、何ができるかを考えさせ、実際に行動できる人材（災害ボランティアリーダー）の育成を目指す。</p>
○日時	<p>平成25年 11月 2日（土）～3日（日） 1泊2日 *雨天決行 2日（土）13:00集合完了 ～ 3日（日）10:30頃解散 *2日の昼食は各自でとってから集合する。</p>
○場所	<p>岐阜県立〇〇高等学校（体育館、グラウンド）</p>
○協力	<p>防衛省 自衛隊岐阜地方協力本部（3～4名） 防災士（NPO 日本防災士機構認定）災害ボランティアコーディネーター</p>

- 参加生徒 希望者（各クラス2～3名、計36名）
- 引率教員 各科代表1～2名・委員会担当者・希望者（計20名）
- 参加条件
 - ・保護者の同意書の提出（後日、希望者へ同意書を配布）
 - ・緊急時（夜間を含め）保護者の迎えが可能であること
 - ・1泊する時に使用する寝袋等（毛布可）が持参できる人
 - ・体調管理が自分でしっかりできる人
 - ・防災に関して興味関心が高く、自ら学び、考え、行動できる人
また、事前の課題がきちんと提出できる人

*事前課題（避難生活時の食事計画）冊子提出（○月○日まで）
- 準備用具

【個人の持ち物】

- 自分の荷物は一つにまとめ、整理整頓を心掛けよう。集団生活の基本です。
- 持ち物への記名も忘れずに。

- 寝袋，毛布，派手でない防寒着（各自体調管理に留意し，防寒手段を考え持参すること）
- 制服（登校時着用） 体育時の服装 体育館シューズ
- タオル（大小） 着替え（靴下や靴も）*雨天時を考え多めに準備 洗面用具等
- 懐中電灯（個人用） 軍手（1組） 筆記用具
- 雨具（傘・合羽） 皿・器・箸など
- 夕食，朝食計画用紙に記入した物（班で分担する）
- ラップ，ビニール袋，菜箸，ウェットテッシュ，調味料，調理器具等
- 200円相当の食材等
- 生活用水として，各自，2リットルの水（水道水可）を持参する。
（手や顔を洗ったり非常食を茹でたりする時などに使用。空のペットボトルを持参し学校で汲んでも可）
- *学校から支給するもの
 - ・1人2本（500ミリリットル×2）のミネラルウォーター
 - ・朝食用のアルファ米（1食分）
 - ・耳栓（1組）

〈必要に応じて…〉

- 新聞紙（1日分） カイロ マスク アイマスク ラップ
- 常備薬（胃腸薬など，必要に応じて） 飴（のど飴など）
- 個別に必要な物（コンタクトレンズ関係，服用中の薬，生理用品等）
- ◎その他，体験学習に必要なと思われる物。（要相談）
- ◎持ち物は原則自己管理です。貴重品等で心配な場合は預かります。（個別に申し出る）
- ◎携帯電話の充電がしたい場合は，各自非常時用の充電器を使用してください。（学校では出来ません）



1 単元名

「災害に備える ー非常用備蓄品ー」

2 ねらい

○各自で備蓄品の点検をすることにより，備蓄の大切さを確認するとともに，生徒の防災意識の高揚を図る。

【防災教育の観点】

○帰宅が困難になった場合，学校に留まることに備えた最低限必要な非常食等の備蓄の意義を理解する。

3 指導計画

(1) 事前指導

①入学時の指導

- ・非常用備蓄品の設置の意義と内容を理解させる。
- ・自己のアレルギー等の状況を踏まえた非常用備蓄品を考えさせる。

②非常用備蓄品の設置時の指導

- ・備蓄品の内容や消費期限の確認をすることにより，長期備蓄の条件や緊急時に対する準備の大切さを理解させる。

(2) 本時の指導

①非常用備蓄品の点検と保管に関する指導

- ・非常用備蓄品の内容を確認させ，使い方を理解させる。
(3日分の食料や水，簡易トイレ，簡易寝袋等)
- ・非常用備蓄品の保管状況と保管場所について理解させる。

②自主備蓄品の活用と保管に関する指導

- ・自主備蓄品として各自が必要と考えるものを準備させる。
- ・保管についての条件やルールに照らして備蓄させる。

③緊急時の非常用備蓄品の使用方法に関する指導

- ・緊急時の使用方法を理解させる。
(マニュアルに沿った手順等)

(3) 事後指導

①学年末や卒業時の指導

- ・第1，2学年は教室の変更に伴って保管場所を変えることや，第3学年は卒業時に自宅へ持って帰ることを知らせる。

②家庭での応用についての指導

- ・学校常備用非常食等セットを参考に，家庭で用意できる備蓄品を考えさせ実行する意義を理解させる。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 非常用備蓄品の意義を考える。 2 非常用備蓄品を確認する。 ・不足や変形等の異常が無いかを確認する。 ・使い方を確認する。 3 自主備蓄品の保管を考える。 ・備蓄品として望ましいものであることを確認する。 ・備蓄箱に収まるように入れる。 4 使う場合の注意点について考える。 5 非常用備蓄品のクラス分を収納し、保管する。	・高校生活の手引きと実物を活用し、備蓄の目的や内容について理解させる。 ・自主備蓄品のルールを確認させるとともに、備蓄に適した物を準備させ、収納させる。 ・非常時の場合、自分以外の人が、使用することがあることを理解させる。 ・クラス用の保管箱の収納について、留意点を知らせ、適切な収納をさせる。	・非常用備蓄品の 実物 ・高校生活の手引き ・自主備蓄品の ルール等

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
非常食等の備蓄の意義を理解しようとしている。	学習したことを家庭生活で応用しようとしている。	非常用備蓄品の目的と内容について理解している。

6 その他

○参考資料【学校常備用非常食等セット例】

<p>■基本セット内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 救難食糧／ER ビスケットバー（9食分）＊日本製 【原材料】小麦粉，砂糖，食用植物油脂，脱脂粉乳，ピーナッツ粉， 【特徴】高エネルギー，調理不要で，携帯性が高い。 水の確保困難時にもすぐに食べられるビスケットタイプで，口どけが良く，水分が少なくても食べやすい。飲料水の使用を最小限にとどめることが期待できる。日本人好みの味。1食分ずつの真空パック包装であり，衛生的で非常にコンパクトである。水にも強い。 簡易寝袋 1枚 ・アルミ蒸着シート 寝袋タイプ，100×200cm モバイルトイレ（吸水紙パック）1セット3枚・約1.5リットルの水（尿：約7～8回分）を吸う。 便座，バケツ，洗面器，ゴミ箱，段ボールなどに広げて装着する。 5年保存水 日本製，500mlのペットボトル 3本 備蓄箱 個箱1箱（幅226mm×奥行233mm×高さ114mm） <p>■アレルギーフリーセットの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本セットは同じ。＊マジックライス（乾燥米飯）6食分＊日本製 【原材料】米 【特徴】熱湯（15分）や水（60分）を入れると，ご飯や雑炊ができる。
--

1 単元名

「防災グッズを手作りしよう ―防災ずきんの製作―」

2 ねらい

- 製作の過程において、防災ずきんを着用する場面をイメージしながら仲間と防災・減災について話し合うことで、防災意識の高揚を図る。
- 身近な物でも工夫次第で防災・減災に繋がることや、手作りすることで他人まかせでない主体的な防災・減災意識が芽生えることを理解する。

【防災教育の観点】

- 身近な物で簡単に製作でき学校生活で常に持ち歩ける、バッグ型防災ずきんの製作を通して、命を守るためにはまず頭部保護が重要なポイントになることを理解する。

3 指導計画

（1）事前指導

① バッグ型防災ずきんの作り方に関する指導

- ・製作グループを作る。（1班4～5名）
- ・グループ内で製作リーダー（1名）を決め、事前に作り方を指導する。
- ・リーダーに製作手順や間違えやすい部分を理解させる。

② 実施1週間前の指導

- ・事前に製作プリントを配付し、当日の持ち物（材料・裁縫道具）を準備させる。

（2）本時の指導

① 頭部保護の重要性に関する指導

- ・命を守るためには、頭部保護が重要であることを理解させる。
- ・これから製作する「バッグ型防災ずきん」の特徴を理解させる。

② グループ製作に関する指導

- ・製作リーダーの指導の下で進めさせる。
- ・お互いに製作手順を確認し合いながら製作させる。
- ・まち針等の管理を徹底し、けがのないよう注意させる。

③ 「バッグ型防災ずきん」の特徴を理解させるための指導

- ・なぜ必要なのか、どんな場面で着用するか等、グループで話し合いわせる。
- ・防災ずきんの中に縫い込んだビニール袋や軍手、カイロ等を使う場面をグループで話し合い、災害発生から避難生活までイメージさせる。

（3）事後指導

① 防災ずきんの活用

- ・窓ガラスが多い学校生活では、災害時、小さな破片などの飛散が予測されるので、今回製作したバッグ型防災ずきんを常に持ち歩き、災害に備える

ことが必要であることを理解させる。

②命を守る訓練での着用

- ・命を守る訓練で実際に着用することで、災害時における頭部保護を習慣付けるとともに、他の物(教科書や鞆等)を使つての頭部保護も考えさせる。

4 本時の展開 (2時間)

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 製作グループに分かれる。 2 防災ずきんの特徴を理解する。 3 製作プリントを読み、製作手順を確認する。 4 リーダーの指示により、製作を進める。 5 完成後着用し、着け心地等を確認する。 6 グループで着用場面をイメージし、災害時にどんな行動をとるべきか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・製作リーダーに事前指導を行う。 ・特徴を説明する。 ・製作工程の中でポイントとなる部分を補足説明する。 ・持ち運びやすい持ち手の長さなどを工夫する。 ・スナップボタンの縫い付け位置に注意する。 ・防災ずきんの中に縫い込む物をグループで話し合わせ、その中から主だった意見を全体に紹介し、災害時に必要な物とは何かイメージさせる。 ・学校生活の中で利用するにはどうすれば良いか、どこに保管すべきかなど考えさせる。 	・製作プリント
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>【防災教育の観点】 身近な物で簡単に製作でき学校生活で常に持ち歩けるバッグ型防災ずきんの製作を通して、命を守るためにはまず頭部保護が重要なポイントになることを理解する。</p> </div>		

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
「バッグ型防災ずきん」の特徴を理解し、学校生活の中で積極的に活用しようとしている。	持ち運びやすい持ち手の長さなどを工夫し、まとめたり発表したりしている。	身近な物を工夫して防災・減災のための道具を作ることができる。	防災・減災の必要性について理解している。

6 その他

- 参考資料：「大垣桜高校オリジナル！バッグ型防災ずきん」

バッグ型防災ずきん

家庭クラブでは東日本大震災後、防災に関する研究に取り組んでいます。その中で“自助”の大切さを知り、「自分の命を自分で守る」ための一つのツールとして、全校生徒が防災ずきんを製作し、常備することにしました。

私たちが考案した「バッグ型防災ずきん」は、身近なもので簡単に製作できること、学校生活で常に持ち歩けることがポイントです。その作り方を紹介しますので、ぜひ作ってみてください。

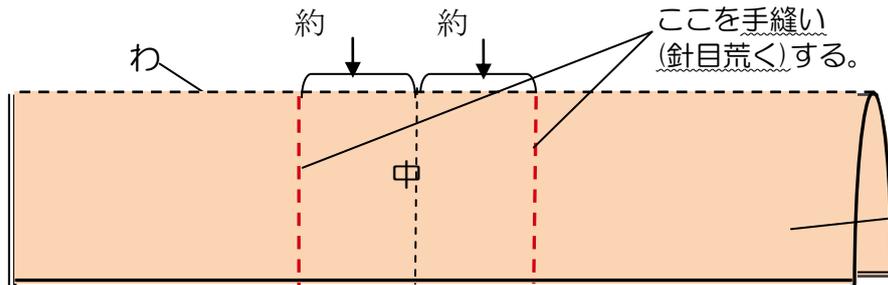
<材料>

- | | |
|-----------------------------------|----|
| ・バスタオル | 1枚 |
| ・給水ポリマー入りスカーフ | 2本 |
| ・スナップボタン（大き目） | 2個 |
| ・ビニール袋（ゴミ袋サイズ） | 1枚 |
| ・軍手 | 一組 |
| ・その他、非常時に持ち出したい物
（ポケットティッシュなど） | |



<作り方>

- 1** バスタオルを下図のように半分に折り、中央から左右15cmくらいのところを縦に縫い、ポケット状にする。



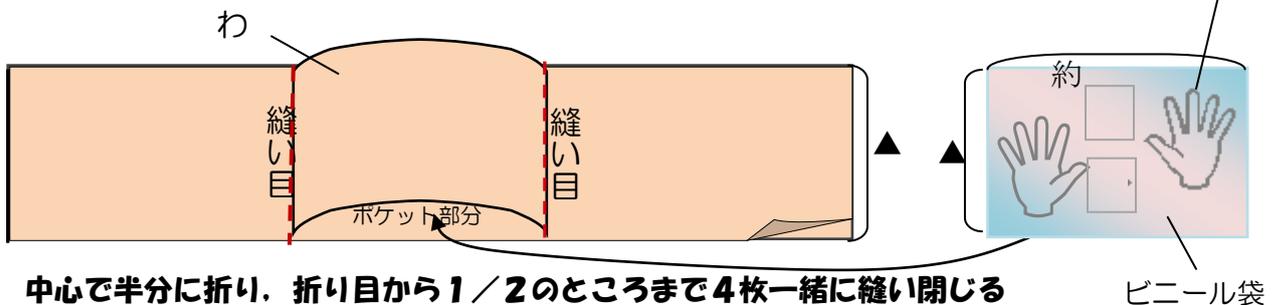
ポイント

すべて「手縫い」で仕上げることで、避難後、容易に解体でき、材料をそれぞれの用途で利用することができる。

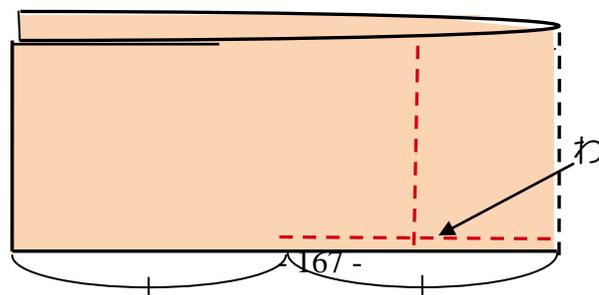
- 2** 中央のポケット状の部分にビニール袋、軍手、その他入れたいもの（ティッシュなど）

ポイント

- ① 軍手などはビニール袋で包んで収納する。（タオルが濡れても収納物は大丈夫）
- ② ビニール袋は、軍手等を包み、ポケットと同じサイズに折りたたんで収納する。（かぶった時にすれにくく、頭部が保護される）



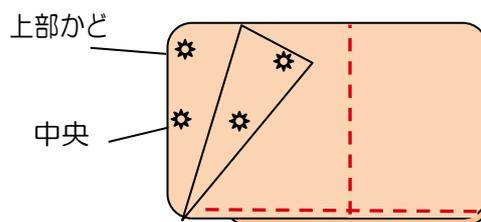
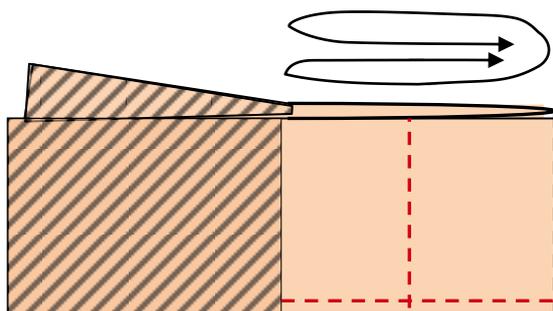
- 3** 中心で半分に折り、折り目から1/2のところまで4枚一緒に縫い閉じる



中に入れたものを一緒に縫わないように注意しながら、ここを縫う

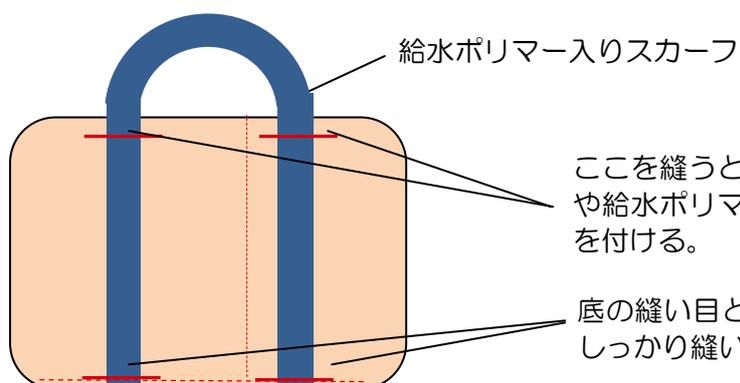
4 図の斜線部分を中心に折込み、折り目の内側にスナップボタンを縫いつける。

折り目の内側にスナップボタンを取り付ける。



スナップボタンは、2つ以上取りつくとバックにしたときに丈夫です。

5 給水ポリマー入りスカーフ2本を持ち手として取り付ける。



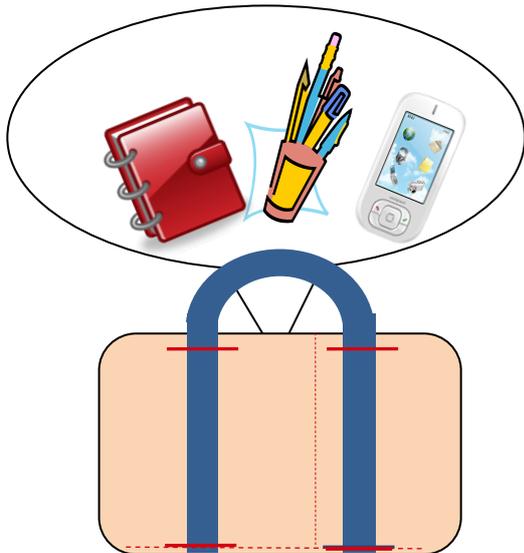
ここを縫うときは、中のビニール袋や給水ポリマーを縫わないように気を付ける。

底の縫い目と同じところで裏側までしっかり縫い付ける。

●普段は・・・

バッグとして活用

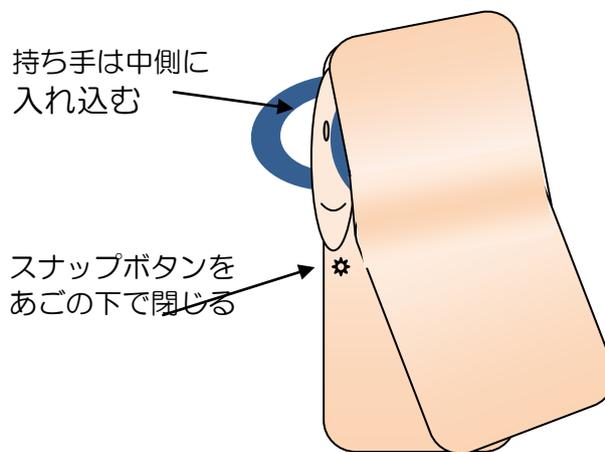
スケジュール帳や筆記用具など身の回りの物を入れて持ち歩く。



●災害時は・・・

防災ずきんとして活用

- ①サイドのスナップボタンをはずし、折り込んだ部分を引出す。
- ②裏返してかぶる。
- ③あごの下でスナップボタンを閉じる。



災害時 その判断が 分かれ道
災害から命を守る岐阜県民運動

トップ | 運動について | 活動報告 | 県内防災イベント | 県民の取組み | 教材の貸出 | お役立ち情報

平成26年 防災教育フォーラムが開催されました！
活用しましょう

イベント情報

- 県内防災イベント
- 県民の取組
- 推進会議
- わが家の防災博士コンクール

施設紹介・教材貸出等

- 広域防災センター
- 地震体験車
- 教材の貸出し

お役立ち情報

- 防災お役立ち情報
- 伊勢湾台風災害体験談
- 私たちの消防団
- 活断層図閲覧コーナー

運動の参加について

- 応援団体のご紹介
- パナー運動
- 防災の取組みをご報告ください！

見つけよう ぼくとわたしに できる自助

ぼ くの家 地震がきても 強いんだ

う ごかない 家具の固定で 安心だ

さ がもうよ 地震で確認 安全ルート

い すぐに 備えて安心 準備だ

災害から命を守る 岐阜県民運動

お役立ち情報満載!! 詳しくはHPへ

災害から命を守る 岐阜県民運動とは・・・

県民の皆さんに「自らの命を守ること」を何よりも第一に考えた防災意識をもっただけでなく、そして、そのために災害が起きた時の「とっさの行動」を身につけてもらうことを目的とした防災啓発キャンペーンで

見つけよう ぼくとわたしに できる自助

- 地域の危険箇所の確認をしましょう
- 避難路・避難所の確認
- 日頃から防災情報を確認
- 家具の配置の工夫と転倒防止（地震）
- 家屋の耐震補強（地震）

今日からできる「共助」のための第一歩

- となり近所であいさつしよう
- 地域活動に積極的に参加しよう
- 防災訓練などの
自主防災組織の活動に参加しよう